

2025年度

日本健康医療専門学校

シラバス （講義概要）

柔道整復学科

3年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病と傷害	医師・整形外科病院長の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
疾病と傷害 3（外科学概論）		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
東 親吾		2単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
柔道整復師は、骨折・脱臼・捻挫などの外傷の治療を行う。その外傷の程度によっては柔道整復師は応急処置のみを行い、その後外科医との連携が必要となる。				
〈到達目標〉				
本講義の到達目標として、柔道整復師として適切な応急処置を行うため、様々な外科的疾患の基礎知識を学び臨床現場で活用できるようになることである。				
2 授業内容				
第1回	損傷			
第2回	熱傷			
第3回	外科感染症			
第4回	腫瘍			
第5回	ショック			
第6回	輸血、輸液			
第7回	消毒と滅菌			
第8回	麻酔			
第9回	心肺蘇生法			
第10回	頭部外傷			
第11回	胸部・腹部外傷			
第12回	移植と免疫			
第13回	手術			
第14回	出血と止血			
第15回	最終評価			
3 履修上の注意				
外科学概論は幅が広いが内容は比較的浅いので点数は取りやすい。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
内容は比較的浅いが外科学概論は幅が広いため知識を定着させることが重要である。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
保健医療福祉2（医学史）		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義は医療・医学の歴史を振り返り学習する。病が人々に与えた影響や近代医学の歴史的な発展について学び、様々な視点で今後の医療に取り組む考え方を養う。医療人としての知識を養うとともに自らが将来の医療の発展に関わるという意識づくりを行う。				
〈到達目標〉				
現在の医療における柔道整復師という業ができるに至った歴史と流れを理解し、自らが医療の発展に関与していることを意識して臨床現場で業務を行う医療人となることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	医学史序説			
第2回	医学史の意義と特質			
第3回	西洋の医学と医療の歴史			
第4回	東洋の医学と医療の歴史			
第5回	日本の医学と医療の歴史			
第6回	現代医学の課題			
第7回	現代の医療制度			
第8回	最終評価			
3 履修上の注意				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	柔道整復の理念	接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
保健医療福祉 3（関係法規）		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
患者を中心に考えられる医療従事者になるために、法律は禁止や罰則のためだけではなく医療の中での人権を守ることが目的であるということを念頭において、柔道整復師の資格とはどういったものか、また他の医療従事者の業務内容と比較し柔道整復師資格取得後の臨床現場での仕事内容（業務範囲）はどういったことなのかを法律や判例を学び理解する。				
〈到達目標〉				
本講義は、接骨院等で医療従事者として仕事をする上での必要な法律（柔道整復師法他、医療関係法規）を学び、患者に対して良質で適切な医療を提供できる柔道整復師になることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	序論			
第2回	柔道整復師法 第1章・第2章			
第3回	柔道整復師法 第3章・第4章			
第4回	柔道整復師法 第5章・第6章・第7章			
第5回	柔道整復師法 第8章・第9章			
第6回	関係法規①			
第7回	関係法規②			
第8回	最終評価			
3 履修上の注意				
必修科目となるため、遅刻や欠席は原則認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
教科書を読み、わからない法律用語は事前に調べること。 受けた講義内容はその日のうちに復習すること。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	接骨院勤務5年、ハローワーク職業訓練学校講師3年		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
職業倫理（関係法規2）		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
柔道整復師として、その職業の社会的責任の重大性を認識させ、もって広く社会貢献できる人材を育てることが、本講義の目的である。 主たる内容として、柔道整復師は生涯学習の精神を保ち、常に医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くすこと。そしてこの職業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛けること。更に医療を受ける人々の人格を尊重し、優しい心で接するとともに、医療内容についてよく説明し、信頼を得るように努めること。				
〈到達目標〉				
事例を交えて理解させ、修得させることで、後世に向けて柔道整復術の必要性や、伝統医療としての重要性を途絶えさせることのない医療人を育成することが、本講義の到達目標である。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション			
第2回	医療従事者の職業倫理			
第3回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応①			
第4回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応②			
第5回	柔道整復師の社会的責任と対応			
第6回	グループ・ディスカッション事例			
第7回	医療における情報と責任			
第8回	最終評価			
3 履修上の注意				
遅刻および欠席は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
講義で実施した内容は必ず復習をしておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験は60%以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	柔道整復の理念			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道実技（柔道3）		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
田村 昌大、竹村 春樹		1単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
1882年に嘉納治五郎師範によって創始された柔道は、現在200か国に普及発展を遂げている。柔道整復師における柔道実技は、理合いを体得することで整復実技等の応用力に繋がるものである。また、近年では国家試験問題としても採用されているため、技術だけではなく歴史的背景も解説しながら我が国発祥の競技種目を学ぶ機会とする。				
〈到達目標〉				
2年次に体得した礼法や受身や技術練習の反復練習を繰り返しながら、投の形の基礎および応用動作を学んでいく。				
2 授業内容				
第1回	2年次の復習 礼法	第16回	投技② 連絡技	
第2回	2年次の復習 後方受身	第17回	投技③ 連絡技	
第3回	2年次の復習 側方受身	第18回	投技④ 応用技術の実践	
第4回	2年次の復習 前方回転受身	第19回	確認テスト	
第5回	2年次の復習 投技	第20	最終評価	
第6回	投の形① 手技			
第7回	投の形② 手技			
第8回	投の形③ 手技			
第9回	投の形④ 腰技			
第10回	投の形⑤ 腰技			
第11回	投の形⑥ 腰技			
第12回	投の形⑦ 足技			
第13回	投の形⑧ 足技			
第14回	投の形⑨ 足技			
第15回	投技① 連絡技			
3 履修上の注意				
ケガ防止のため担当者の指示に必ず従うこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内で実施した内容を次の授業までに復習しておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
確認テスト30％、実技テスト70％ 授業態度や出欠状況にも留意すること。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	社会保障制度	接骨院勤務5年、ハローワーク職業訓練学校講師3年		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会保障制度（社会保障制度）		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		1単位	15時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
国民の生存権の確保を目的とした国家の保障制度を理解することは、その一翼を担う医療人として不可欠である。社会保障制度の目的は国民の生活の安定、自立支援、家庭機能の支援である。始めにこれらを国家として取り組む必要性について理解をする。次にこの制度を維持するための、社会的安全装置（社会的セーフティネット）相互扶助、所得再分配とは何か、最後に社会保障制度を運用するための具体的な法整備について知る。				
〈到達目標〉				
社会保障制度の中で柔道整復師はどう貢献すべきなのかを理解することが当講義の根源的な目標である。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション			
第2回	社会保障、社会保険制度			
第3回	医療保険制度①			
第4回	医療保険制度②			
第5回	療養費制度①			
第6回	療養費制度②			
第7回	療養費請求のケーススタディ			
第8回	最終評価			
3 履修上の注意				
遅刻および欠席は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
講義で実施した内容は必ず復習をしておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	臨床柔道整復学	佐々木 慎司：接骨院の実務経験 新井 啓之：歯科医師・歯学博士として臨床・教育に従事		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（総論） 3		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐々木 慎司、新井 啓之		4単位	80時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
基礎柔道整復学は、解剖学・運動学に関連する教科であり、特に骨と密接に関わる血管と神経の機能を理解することとで、臨床現場で活かされる教科となる。				
〈到達目標〉				
骨折に伴う血管および神経損傷と、そのメカニズムを理解することである。講義の進め方として、教科書の記載内容と臨床現場での実際を交えながら学習する。				
2 授業内容				
第1回	鎖骨骨折と血管・神経損傷	第21回	骨盤骨折と血管・神経損傷	
第2回	肩甲骨骨折と血管・神経損傷	第22回	腸骨翼骨折と血管・神経損傷	
第3回	上腕骨近位端部骨折と血管・神経損傷	第23回	大腿骨近端部骨折と血管・神経損傷	
第4回	上腕骨骨幹部骨折と血管・神経損傷	第24回	大腿骨骨幹部骨折と血管・神経損傷	
第5回	上腕骨遠位部骨折と血管・神経損傷	第25回	大腿骨遠位部骨折と血管・神経損傷	
第6回	前腕骨近位端部骨折と血管・神経損傷	第26回	下腿骨近位端部骨折と血管・神経損傷	
第7回	前腕骨骨幹部骨折と血管・神経損傷	第27回	下腿骨骨幹部骨折と血管・神経損傷	
第8回	前腕骨遠位端部骨折と血管・神経損傷	第28回	下腿骨遠位端部骨折と血管・神経損傷	
第9回	手根骨骨折と血管・神経損傷	第29回	足根骨骨折と血管・神経損傷	
第10回	中間試験	第30回	中間試験	
第11回	中手骨基節骨骨折と血管・神経損傷	第31回	中足骨足の基節骨骨折と血管・神経損傷	
第12回	中節骨骨折と血管・神経損傷	第32回	足の中節骨骨折と血管・神経損傷	
第13回	末節骨骨折と血管・神経損傷	第33回	足の末節骨骨折と血管・神経損傷	
第14回	肋骨骨折と血管・神経損傷	第34回	膝蓋骨骨折と血管・神経損傷	
第15回	胸骨骨折と血管・神経損傷	第35回	膝蓋骨骨折と血管・神経損傷	
第16回	脊柱の骨折と血管・神経損傷	第36回	腰椎椎体圧迫骨折と血管・神経損傷	
第17回	脊柱の骨折と血管・神経損傷	第37回	腰椎椎体圧迫骨折と固定	
第18回	脳神経と脳に関わる動脈	第38回	骨折に伴う合併症とその対策	
第19回	脳神経と脳に関わる動脈	第39回	骨折に伴う合併症とその対策②	
第20回	前期定期試験	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
臨床現場において非常に重要な科目となるので基本的に欠席は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業でやった内容は必ず各自で復習をしておく。				
5 教科書				
6 参考書				
アトラス、骨折臨床学				
7 成績評価の方法				
卒業条件は、前期試験および後期試験において各試験60%以上を達成しなければならない。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床柔道整復学	接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論） 3		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		4単位	80時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義は、柔道整復師が骨折・脱臼・捻挫などの治療を行う際に合併症としておこりうる内臓的損傷を理解するものである。柔道整復師が扱える程度の損傷かどうかの判断をし、必要であれば病院と連携を取るための解剖学的・生理学的な知識を身につける。				
〈到達目標〉				
医療従事者として患者対応をした際に解剖学的・生理学的知識から損傷を正確に判断し、説明ができるようになることを目標とする。				
2 授業内容				
第1回	総論、体液	第21回	骨と内分泌	
第2回	血液	第22回	運動器に作用する内分泌	
第3回	循環器の解剖と生理	第23回	神経の生理	
第4回	循環の調節	第24回	神経系の構成、伝導と伝達	
第5回	呼吸器の解剖と生理	第25回	神経と内臓機能	
第6回	呼吸調節	第26回	脳の高次機能	
第7回	泌尿器の解剖と生理	第27回	筋の生理	
第8回	神経と排尿反射	第28回	骨格筋	
第9回	定期試験	第29回	定期試験	
第10回	消化器の解剖と生理	第30回	筋収縮	
第11回	吸収、ホルモン	第31回	運動に関する中枢神経	
第12回	肝臓と胆嚢と疾患	第32回	運動ニューロン、運動単位	
第13回	栄養・代謝の基礎	第33回	反射	
第14回	栄養・代謝と運動	第34回	姿勢と歩行	
第15回	代謝と体温	第35回	特殊感覚	
第16回	体温の調節	第36回	皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚	
第17回	内分泌について	第37回	高齢者	
第18回	内分泌について	第38回	競技者	
第19回	定期試験	第39回	定期試験	
第20回	生殖と内分泌	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業前に1,2年生で学んだ各単元の内容を復習し、授業では不明な点を解決できるようにすること。				
5 教科書				
6 参考書				
一般臨床医学サブテキスト				
7 成績評価の方法				
定期試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床柔道整復学	竹村 春樹：柔道整復師として臨床経験有 亀田 奈保子：柔道整復師として臨床経験有		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論） 4		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
亀田 奈保子、竹村 春樹		2単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義は、骨折・脱臼などの分類や症状を学び、治療を行う際の合併症（併発症・続発症・後遺症）から治療法と治療効果を考える。				
〈到達目標〉				
人体の構造と機能を考え、起こりうる合併症を想起できるようになることが到達目標である。				
2 授業内容				
第1回	上肢の骨と骨の名称	第16回	骨折の合併症とその対策 脱臼の分類 脱臼の症状 脱臼の合併症とその対策 最終評価	
第2回	上肢の骨格筋	第17回		
第3回	上肢の脈管と神経	第18回		
第4回	上肢の骨折と脱臼、合併症とその対策	第19回		
第5回	下肢の骨と骨の名称	第20回		
第6回	下肢の骨格筋			
第7回	下肢の脈管と神経			
第8回	下肢の骨折と脱臼、合併症とその対策			
第9回	上肢（肩関節、肘関節、手関節）の固定 実技			
第10回	下肢（膝関節、足関節）の固定 実技			
第11回	骨折の分類			
第12回	骨折の症状①			
第13回	骨折の症状②			
第14回	骨折の合併症①			
第15回	骨折の合併症②			
3 履修上の注意				
確認試験は正課規定時間外にも実施することもある。				
確認試験は正規評価と違い80点以上を合格とする。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
1 年次・2 年次で実施した内容はしっかりと復習しておく。				
5 教科書				
6 参考書				
柔道整復学・実技編、理論編				
7 成績評価の方法				
確認試験、中間試験、定期試験60％以上で合格とする。受講態度を勘案しての総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床柔道整復学	接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論） 5		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 青也		4単位	80時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床の現場で多く発生し、遭遇することの多い疾患を理解する。授業で各疾患の概要や疫学、特徴的な症状や検査について把握する。臨床現場でそれらの疾患に遭遇した際の注意点や鑑別などについても詳しく理解をする。				
〈到達目標〉				
柔道整復学および柔道整復術を理解する上で必要な一般臨床医学を身につける。 範囲は呼吸器、循環器、消化器、肝胆膵、内分泌、神経系、腎臓、血液の疾患と膠原病を中心に問診、視診、触診、生命徴候を理解させる。				
2 授業内容				
第1回	診察の意義と進め方、医療面接	第21回	内分泌疾患との鑑別	
第2回	視診（体格・姿勢・栄養状態　）	第22回	血液・造血管疾患との鑑別	
第3回	視診（精神状態）	第23回	腎・尿路疾患との鑑別	
第4回	視診（異常運動）	第24回	神経疾患との鑑別	
第5回	視診（歩行）	第25回	総復習	
第6回	視診（皮膚の状態）	第26回	病理学とは　疾病の一般	
第7回	視診（頭部・顔面の視診）	第27回	循環障害①	
第8回	視診（頸・胸・腹・背部の視診）	第28回	循環障害②	
第9回	視診（四肢の視診）	第29回	細胞障害①（退行性病変、代謝障害）	
第10回	打診	第30回	細胞障害②（退行性病変、代謝障害）	
第11回	聴診	第31回	進行性病変と細胞・組織の適応①	
第12回	触診	第32回	進行性病変と細胞・組織の適応②	
第13回	生命徴候	第33回	炎症①	
第14回	感覚検査	第34回	炎症②	
第15回	反射検査	第35回	免疫異常①	
第16回	生理機能検査	第36回	免疫異常②	
第17回	呼吸器疾患との鑑別	第37回	腫瘍	
第18回	循環器疾患との鑑別	第38回	先天性異常	
第19回	消化器疾患との鑑別	第39回	病因	
第20回	代謝疾患との鑑別	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
毎授業ごとに前授業範囲に関する小テストを実施し提出してもらう。教科書、ノート、配布プリントを持参。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
各授業での小テストのために、配付プリントの復習や教科書の該当範囲を熟読するように指導する。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
前期試験および後期試験において60％以上を達成しなければならない。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	臨床柔道整復学	臨床経験の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論） 8		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
新才 博紀		4単位	80時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義では解剖学的な知識を基に、柔道整復師の業務範囲である骨折や脱臼、軟部組織損傷の合併症として起こりうる損傷を理解し、臨床現場に出た際に注意する点や見落としてはならない点なども解説していく。合併症を理解することにより柔道整復師が扱える疾患かの判断をすることが出来るようになることを目的とする。				
〈到達目標〉				
各内蔵器の解剖学的知識から骨折や脱臼、軟部組織損傷によって起こりうる合併症を想定し理解できるようにする。				
2 授業内容				
第1回	肩関節部の軟部組織損傷	第31回	足・趾部の軟部組織損傷	
第2回	肩関節部の軟部組織損傷	第32回	足・趾部の軟部組織損傷	
第3回	肩関節部の軟部組織損傷	第33回	下肢の軟部組織損傷 確認試験	
第4回	肩関節部の軟部組織損傷	第34回	頭部、顔面部の軟部組織損傷	
第5回	肩関節部の軟部組織損傷	第35回	頸部の軟部組織損傷	
第6回	上腕部の軟部組織損傷	第36回	頸部の軟部組織損傷	
第7回	上腕部の軟部組織損傷	第37回	胸・背部の軟部組織損傷	
第8回	肘関節部の軟部組織損傷	第38回	腰部の軟部組織損傷	
第9回	肘関節部の軟部組織損傷	第39回	体幹の軟部組織損傷 確認試験	
第10回	肘関節部の軟部組織損傷	第40回	最終評価	
第11回	前腕部の軟部組織損傷			
第12回	前腕部の軟部組織損傷			
第13回	手関節部の軟部組織損傷			
第14回	手関節部の軟部組織損傷			
第15回	手関節部の軟部組織損傷			
第16回	手部、指部の軟部組織損傷			
第17回	手部、指部の軟部組織損傷			
第18回	手部、指部の軟部組織損傷			
第19回	上肢の神経損傷			
第20回	上肢の軟部組織損傷 確認試験			
第21回	股関節の軟部組織損傷			
第22回	股関節の軟部組織損傷			
第23回	大腿部の軟部組織損傷			
第24回	大腿部の軟部組織損傷			
第25回	膝関節部の軟部組織損傷			
第26回	膝関節部の軟部組織損傷			
第27回	膝関節部の軟部組織損傷			
第28回	下腿部の軟部組織損傷			
第29回	足関節部の軟部組織損傷			
第30回	足関節部の軟部組織損傷			
3 履修上の注意				
授業は配布する資料を中心に進めていくが、必ず教科書も参照しながら受講すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業中にまとめた資料を教科書にも書き込みながら復習を行うこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
卒業条件は、前期試験および後期試験において各試験60%以上を達成しなければならない。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	柔道整復実技 5	接骨院勤の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技 5		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大野 洋平		2単位	80時間	実習
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
前期：体幹骨折・頭蓋骨折・脊柱骨折脱臼と実技 後期：実技とケーススタディ				
〈到達目標〉				
柔道整復学 理論・実技に対する知識・技術を習得することが出来る				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション	第21回	実技：総合復習（整復・骨折）	
第2回	骨折・体幹：肩甲骨骨折	第22回	実技：総合復習（整復・脱臼）	
第3回	骨折・体幹：肋骨骨折・胸骨骨折	第23回	実技：総合復習（検査・軟損）	
第4回	実技：下腿三頭筋肉離れ（診察と検査）	第24回	実技：総合復習（固定・骨折）	
第5回	実技：アキレス腱断裂（固定）	第25回	実技：総合復習（固定・脱臼）	
第6回	実技：復習	第26回	実技：総合復習（固定・軟損）	
第7回	骨折・頭部：頭蓋骨骨折（脳頭蓋）	第27回	実技：臨床（理学検査）	
第8回	骨折・頭部：頭蓋骨骨折（顔面頭蓋）	第28回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第9回	骨折脱臼・脊柱：頸椎	第29回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第10回	骨折脱臼・脊柱：胸椎・腰椎	第30回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第11回	実技：診察復習	第31回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第12回	実技：固定復習	第32回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第13回	実技：総合復習	第33回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第14回	柔整理論復習：演習問題	第34回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第15回	柔整理論復習：演習問題	第35回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第16回	柔整理論復習：演習問題	第36回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第17回	実技：診察復習	第37回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第18回	実技：固定復習	第38回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第19回	実技：総合復習	第39回	柔整理論復習：ケーススタディ	
第20回	中間評価	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
教科書を読む				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
卒業条件は、前期試験および後期試験において各試験60%以上を達成しなければならない。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	柔道整復実技 6	接骨院経営の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技 6		3学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
永井 孝英		2単位	80時間	実習
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
柔道整復理論で身に着けた知識を基に、より実践的な能力を身に着けるべく、各部位の解剖学的知識から生理学的特性を理解していく。また各部位ごとの臨床的検査や鑑別疾患を正しく評価するべく技術を磨いていく。そして、各疾患に対する整復法や固定法を実施していく。				
〈到達目標〉				
柔道整復師として遭遇する疾患を正しく評価・鑑別し、その疾患に対する対処法を正しく理解するとともに、実施できる能力を身に着ける。				
2 授業内容				
第1回	肩関節周囲の解剖	第21回	膝関節周囲の解剖	
第2回	肩関節周囲の運動	第22回	膝関節周囲の運動	
第3回	肩関節周囲の検査法・評価法	第23回	膝関節周囲の検査法・評価法	
第4回	肩関節周囲の整復法・固定法	第24回	膝関節周囲の整復法・固定法	
第5回	肩関節周囲の後療法	第25回	膝関節周囲の後療法	
第6回	肘関節周囲の解剖	第26回	足関節及び足指の解剖	
第7回	肘関節周囲の運動	第27回	足関節及び足指の運動	
第8回	肘関節周囲の検査法・評価法	第28回	足関節及び足指の検査法・評価法	
第9回	肘関節周囲の整復法・固定法	第29回	足関節及び足指の整復法・固定法	
第10回	肘関節周囲の後療法	第30回	足関節及び足指の後療法	
第11回	手関節及び手指の解剖	第31回	頸部の解剖	
第12回	手関節及び手指の運動	第32回	頸部の運動	
第13回	手関節及び手指の検査法・評価法	第33回	頸部の検査法・評価法	
第14回	手関節及び手指の整復法・固定法	第34回	頸部の固定法・後療法	
第15回	手関節及び手指の後療法	第35回	腰部の解剖	
第16回	股関節周囲の解剖	第36回	腰部の運動	
第17回	股関節周囲の運動	第37回	腰部の検査法・評価法	
第18回	股関節周囲の検査法・評価法	第38回	腰部の固定法・後療法	
第19回	股関節周囲の整復法・固定法	第39回	顎関節の固定法	
第20回	股関節周囲の後療法	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
必修科目となるため原則遅刻・欠席・早退は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床現場に出た際も実践できるように常日頃練習を怠らない。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
卒業条件は、前期試験および後期試験において各試験60%以上を達成しなければならない。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容		科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床柔道整復学		八角卓克：大学助教 沼尻昭：整形外科でのリハビリの実務経験 佐藤洋平：整骨院での臨床経験		
授業科目			配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技 7			3学年		必修
担当者名			単位	時間数	授業形態
八角 卓克、佐藤 洋平、沼尻 昭			3単位	120時間	実習
1 授業科目の概要・到達目標					
〈概要〉					
柔道整復師として備えるべく後療法の知識・技術・応用力を身につける。後療法に必要な評価法、治療法、高齢者に対する機能訓練などを詳しく学び現場で卒業後に現場で即戦力となる人材を育てる。またコメディカルスタッフとしてリハビリテーションについての知識を学ぶ。リハビリテーション医学の基礎や理学療法、作業療法など関連職種と関係しながら患者と接することができる柔道整復師の育成を目的とする。					
〈到達目標〉					
後療法に携わる他業種ともコミュニケーションが取れる医療用語が習得できる リハビリテーションについての知識を深めることができる。					
2 授業内容					
第1回	オリエンテーション		第31回	運動とエネルギー代謝	
第2回	リハビリテーションの対象と障害者の実態		第32回	競技者の運動生理学的特徴	
第3回	障害の階層とアプローチ		第33回	検査・測定と評価	
第4回	評価学-ROM MMT		第34回	コンディショニングの方法と実際	
第5回	評価学-ADL 心理		第35回	肩関節・体幹部の外傷予防	
第6回	リハビリテーション障害学 関節		第36回	膝関節の外傷予防	
第7回	リハビリテーション障害学 筋		第37回	足関節の外傷予防	
第8回	リハビリテーション治療学 関節		第38回	成長期・高齢者の外傷予防①	
第9回	リハビリテーション治療学 筋		第39回	成長期・高齢者の外傷予防②	
第10回	定期試験		第40回	最終評価	
第11回	リハビリテーション医学の関連職種				
第12回	治療技術-理学療法				
第13回	治療技術-作業療法				
第14回	治療技術-補装具				
第15回	高齢者のリハビリテーション				
第16回	運動器のリハビリテーション 骨折				
第17回	運動器のリハビリテーション 関節				
第18回	運動器のリハビリテーション 軟損				
第19回	リハビリテーションと福祉				
第20回	定期試験				
第21回	障害者スポーツ				
第22回	認知症の理解				
第23回	介護保険制度				
第24回	介護予防と生活機能の向上				
第25回	ロコモティブシンドローム				
第26回	機能訓練指導員と機能訓練				
第27回	機能訓練指導員と機能訓練				
第28回	機能訓練で提供する運動と要点				
第29回	機能訓練で提供する運動と要点				
第30回	定期試験				
3 履修上の注意					
・「リハビリテーション医学」「競技者の外傷予防」「柔道整復師と機能訓練指導」の教科書を必ず持参すること。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容					
・授業中にまとめたノートやプリントを見直すこと。					
5 教科書					
6 参考書					
7 成績評価の方法					
卒業条件は、前期試験および後期試験において各試験60%以上を達成しなければならない。					
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）					